

東郷町
校務DX計画

1. 本町の現状

近年、教員の事務量の多さが問題視されている。

事務作業が膨大が過大になることで、本来の授業や生徒指導に割く時間が減少してしまう等の弊害が起こりうるため、きめ細やかな教育を確保するためにもDX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した校務の効率化は急務である。

本町においても、令和5年度、教育委員会からの通知文書を、サーバ上に保存したものを閲覧する方式に切り替えることで、学校での紙文書印刷の時間を削減した。

しかし、いまだに校務の改善の余地は多く、引き続き課題の洗い出し等、現状を注視していく必要がある。

2. 校務DX化チェックリストによる点検結果

全国の学校設置者及び学校を対象とした、文部科学省による「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検の結果が公表された。

本町における校務DX化の自治体別達成状況は、県下55自治体中39位で、個別の結果については以下のとおり。

（％は、半分以上または完全に実施していると回答した学校数が占める割合）

	全国	本町
児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付け、学校内で集計していますか。	75.5%	87.5%
業務時間外の保護者からの問い合わせや連絡事項について、クラウドサービス等を用い、PC・モバイル端末等から受け付ける体制を整えていますか。	27.9%	12.5%
学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信していますか。	48.9%	75.0%
保護者から学校への提出資料をクラウドサービスを用い、受け付けていますか。	13.6%	0%
保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。	60.6%	12.5%
保護者との日程調整をクラウドサービスを用いて行っていますか。	12.7%	0%
学校説明会や保護者面談などにオンライン形式を取り入れていますか。	4.7%	0%

学校徴収金について、現金徴収ではなく、口座振替、インターネットバンキング等を活用して徴収金の徴収を行っていますか。	76.8%	100%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭で利用できるようにしていますか。	39.1%	0%
児童生徒への各種連絡をクラウドサービスを用いて配信していますか。	28.2%	37.5%
児童生徒への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。	54.0%	50.0%
宿題（学期中のもの）をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いて実施・採点していますか。	18.0%	0%
宿題（長期休暇中）をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いて実施・採点していますか。	17.1%	0%
クラウドサービス等を活用し、授業中の小テスト等にCBTを取り入れていますか。	36.5%	37.5%
職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化していますか。	76.5%	100%
職員会議等における検討事項について、クラウドサービスを用いて事前に情報共有し、あらかじめ意見を求めていますか。	29.3%	25.0%
職員会議等をハイブリッド（対面・オンライン）で実施していますか。	3.1%	0%
職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れていますか。	77.0%	100%
校内外の行事日程、施設や特別教室の利用予約等について、クラウドサービスを使って共有し、いつでも確認できるようにしていますか。	31.8%	37.5%
教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し活用していますか。	39.7%	62.5%
授業研究会や校内研修等をハイブリッド（対面・オンライン）で実施していますか。	7.2%	0%
校内研修について、オンデマンド視聴を取り入れていますか。	45.9%	12.5%
授業研究会や校内研修等での協議にクラウドサービスを用いていますか。	45.9%	25.0%
教職員への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。	66.5%	37.5%
教職員から学校へ提出する事務手続き資料をクラウドサービスを用い、受け付けていますか。	24.1%	0%
学校から教職員に紙で提出を求めている書類はない。	4.7%	12.5%
長期休暇期間（夏休み等）の教職員の動静調査をクラウドサービスを用いて実施・管理していますか。	36.1%	25.0%

教員は校務用の個人メールアドレスが附与されていますか。	82. 2%	12. 5%
日常の業務に FAX を使用していない。	22. 9%	0%
業務で押印が必要な書類はありますか。	7. 3%	25. 0%
1 人 1 台端末のパスワードについて、教職員が把握し一括で管理するのではなく、児童生徒に管理を任せている。	40. 5%	0%
学級・学校経営に有効な教育データ等が、必要な職位に応じてアクセス権限が設定されるとともに、活用しやすいように整理され、閲覧できますか。	83. 4%	87. 5%
「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」に基づき生成 AI を校務で活用していますか。	2. 6%	12. 5%

3. 今後の課題、目標

① クラウドサービスの活用

調査結果から、調査・アンケート業務や、会議資料等の共有において、他自治体と比較して、クラウドサービスの活用が進んでいないという調査結果が得られた。

クラウドを活用することにより、従来手作業や紙ベースで行っていた業務がデジタル化され、業務時間の短縮につながる。また、会議資料等の職員間、学校間で資料の共有をリアルタイムで行うことができるなど、迅速な対応が可能になる。

このようにクラウドサービスの活用は、校務のDX化を推進するために必要不可欠である。今後は、クラウドサービスを活用することができる業務の洗い出しを行う等、学校と協力し、より一層のペーパーレス化、不必要な手入力作業等を一掃し、業務時間の短縮を目指す。

② FAXや押印の見直し

FAXや押印については、校務DX化を大きく阻害するものである。

しかしながら、本町では、町内すべての公立学校において、FAXを使用しているとの調査結果が出ており、押印についても、他自治体と同程度の水準ながらも、いまだに押印を求める書類が存在している。

これらの業務に対し、FAXや押印の使用の必要性を検討を行い、代替の連絡方法の提案や、要綱の改正による押印が必要な書類の削減を目指していく。

③ 次世代校務システムの導入の検討

クラウド環境ベースの次世代校務支援システムが現在開発中である。開発状況を注視するとともに、移行の時期を精査し、適切なタイミングでスムーズな移行ができるように検討を進める。